

ROTARY CLUB OF

KANAZAWA-NORTH



### 金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30~13:30

例会場：金沢市東山1-38-30・松魚亭

TEL<0762>52-2271 FAX52-2273

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL<0762>22-2525 FAX24-2882

会長：清水 忠 幹事：米沢 真二

情報委員長：吉田富士夫

1989年10月12日 第400号

## 金沢における高山右近

純愛キリスト教会 山 県 実 氏



今から400年前の天正16年(1588)に、京の伏見にいた前田利家は浪人となった高山右近に、優しい声をかけました。「金沢へ来るがよい、3万石を与える程に」それに対して右近は、「禄は少なくとも良い。せめて南蛮寺(教会)の一ヶ寺でも建てて下さるなら、参ろう」と答えました。

この男と男の短かいやりとりのなかに、利家の姿と、キリシタンとして生き、それ故に明石6万石を秀吉から奪われて、一夜にして浪人になりながら、尚もひとつの目当てをもって凜々しく生きている、右近像を見ます。

右近の来沢は36才。以来慶長19年(1614)までの26年間は、金沢での命をかけた半生でした。戦術家、また築城家、そして茶に能にと、あらゆる分野で秀れた才覚を発揮して、加賀百万石の礎を築く上に、大きな貢献をするのであります。

私は右近の特性として、静中に心を統一する茶道の世界とは別に、スピーディな男と云う印象を持つのです。すでに高槻、明石の築城で手腕を発揮した彼は、3キロに及ぶ内堀工事を27日間で金沢城に完成させ、大阪・江戸に次ぐ巨城となった高岡城を、160日の突貫工事で仕上げました。今その跡をとどめる高岡の古城公園には、大きな右近の顕彰碑が建ち、終焉の地マニラや高槻にも銅像があります。だが半生を生きた金沢の町には、これと云ったものは、ありません。

徳川家康は、「右近の率いる一千の兵は、他將の率いる一万の兵に勝る」と高く評価はしましたが、右近を何とかしてこの世から抹殺しようとしたのか、金沢に於ける右近の資料が無いのは、加賀藩としても、そうせざるを得ない秘密とも云える理由からかと思うのです。

二代藩主利長とは、言葉に云いつくせぬ深い友情を保ちました。右近は、千利休の七哲の一と云われた大茶人ですが、そのためか金沢は、京都に次いで茶の湯が盛んです。鶴の羽箒云々の書状が、木島さんの家に現存するのは、右近の資料が乏しいなかで非常な喜こびです。利休七哲の5人までが右近によってキリシタンとなり、残る古田織部や細川の夫人ガラシャのことを考えると、これは宗教の壁を越えて、右近その人の人柄に、大変な魅力があったと云うことです。

今、日本で求められているのは、右近のようなスーパースターではないのかと思います。彼は決して目立ちたがり屋ではなく、むしろ反対の性格で、そこにも惹かれます。

62才の年に国外追放。長崎を経由してマニラに着き、40日後に病に侵されて召されました。先頃その遺骨が発見され、私は墓前に一碗の茶を捧げました。右近にとって374年ぶりのお茶の香りだったでしょう。その時、地上的なもの一切を剥奪されたのに、人間の魂で、いちばん持たねばならぬものは何かを、訴えているように思われました。

—金沢北RC例会講話より— (文責 吉田富士夫)

## わが社の紹介

博報堂はマーケティング・エンジニアリング企業

株式会社博報堂北陸支社

藤川 忠博

「マーケティング・エンジニアリング」それは博報堂が創った言葉です。

この言葉は、そのまま博報堂の進むべき道を明快に表現しています。「マーケティング」とは市場を創ること、市場を動かすこと。「エンジニアリング」とは一つの目的を達成するためにさまざまな技術を総合的に組み合わせて活用すること。

博報堂は、多彩で充実したマーケティング技術を持っています。それを自在に、有機的に駆使しながら、最強のパワーを生み出してゆこう。それが「マーケティング・エンジニア企業」の考え方なのです。

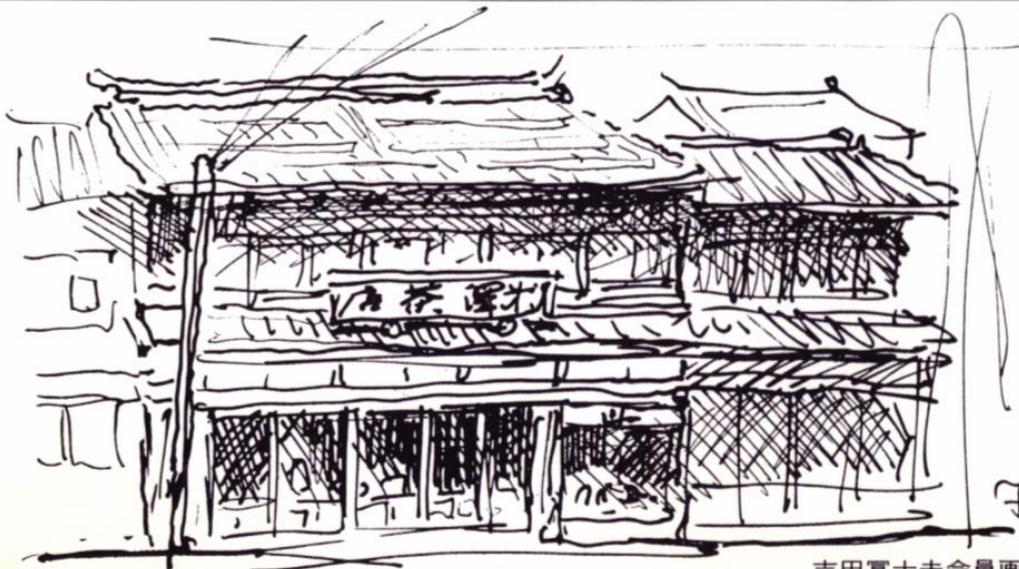
博報堂は、単に商品の広告・宣伝にとどまることなく、商品開発、販売など、あらゆるマーケティング領域をカバーし、お客様と生活者と共に行動します。

博報堂は、得意先企業にとって常に最上のマーケティングパートナーでありたいと考えております。そのために博報堂は「生活者」の視点に立つた発想を重視しています。人々を「生活者」としてみつめ直し、彼等の生活感情にまでアンテナをはり、漠然とした欲求を的確なニーズとして把握する。そしてそれをマーケティング活動に結びつけ、企業にとっても、生活者にとっても、お互いが利益になるよう、両者の新しい関係を創造するコーディネーターとしての役割を担う。これが博報堂の使命であり、そうすることによって社会にも貢献できると確信しております。

博報堂は、明治28年10月に日本橋銀町に教育雑誌の広告取次店「博報堂」として開業、以後数度の社名変更を行ない、昭和30年4月に「株式会社博報堂」と改称して今日に至っております。

北陸支社は総勢わずか9名の小所帯ですが、お客様のニーズに応えるべく、東京本社のスタッフをフルに活用しております。

どんなことでも結構です。一度ご相談ください。



吉田富士夫会員画

## ガバナー公式訪問、クラブ協議会報告

会長 清水 忠

10月5日第800回例会に引続き、清水誠三ガバナー、表秋夫分区代理を迎えて、クラブ協議会を持った。

I. はじめに清水ガバナーからは国際ロータリーのグローバルな立場から、

- (1) 国際ロータリー細則の一部改正にともなって、当クラブのクラブ細則も整合性を持つ様修正の検討を期待したい。
- (2) ロータリーの綱領は、原文は変わらないが日本語訳の変更から、実業を事業、職業を業務等に改めることとなり、全体を大巾に修正したい。
- (3) 本年度国際ロータリーテーマの日本での表示は、“ロータリーをたのしもう”ではなく“エンジョイ、ロータリー!”の原文で統一したい。

旨の意向を表明された。

II. 引続き、当クラブ担当委員長はじめ参加者全員との協議が行われ、

- (1) 社会奉仕については、少年武道大会の金沢市全域への拡大。
- (2) 国際奉仕については、目標を達成したポリオプラスに引続き、特に米山記念奨学金への寄附。
- (3) 職業奉仕については、職場訪問、球技大会、四つのテスト(ロータリアンの信条)
- (4) 地域奉仕については、金沢市の卯辰山周辺整備事業への協力。
- (5) クラブ奉仕については、友好、親睦、出席、会員増強、会報、雑誌、修練、企画等当クラブ独自のシステムによる成果。



を高く評価し、推進すべきことを、ガバナー、分区代理、当クラブ参加者共々に確認した。

奉仕、修練、親睦の目標をロータリアンのボランティアな活動を通じて実践するよう、会員諸兄の一層のご協力を期待したい。

### 創立16周年記念事業

金沢北RC創立16周年記念事業として、11月1日完成予定の金沢卯辰山工芸工房緑地に黒松二本、他を寄贈。

10月6日(金)午後2時、金沢市役所にて清水会長より江川市長に目録贈呈。



